

日出国の教育目標や園児・児童・生徒たちの学園での様子を発信する年3回発行の情報紙です。



学園通信日出

学園通信「日出」Vol.41 2023年10月1日発行

<http://www.hinode.ed.jp/>

発行：学校法人日出国園

〒272-0824 千葉県市川市菅野3-23-1

TEL 047-323-3000

FAX 047-324-0921



日出国公式キャラクター
日和かつば

2023.10
Vol.41



特集 いま「図書館」がおもしろい!

日出国 卒業生からのメッセージ

相手の気持ちになって考える



父であり師匠である福田隆氏(左)と五代目・隆太氏

「龍工房」五代目
福田 隆太
Fukuda Ryuta

私は現在、136年続く家業の「組紐」の製造を行う、「龍工房」の五代目として活動をしています。父や兄が幼少期に日出国でお世話になっていたこともあり、私は日出国で幼稚園から高等学校までの15年間を過ごしました。幼少期から青春時代、そのすべてを日出国で経験した、いわゆる日出っ子です。

今では皇室へ献上する帯締め(着物の帯を留める組紐)の制作や、海外メゾンの店舗装飾・世界的アーティストとコラボした作品制作など、多岐に渡り活動させていただいておりますが、日出国小学校で過ごしたかけがえのない時間は、今の私にとってお金では決して買えない、貴重な財産となっています。

年間に約700人の方とさまざまな仕事を通じてお会いするなかで、どの仕事に取り組む際も共通して「常に相手の気持ちになって考える」ということが私の座右の銘になっています。それはとても基本的

なこと、人間としての常識だと思っておりますが、それは当時、小学生の担任をしていただいていた福永育子先生から、私が毎日最低3回は言われていた言葉でした。

在学中の私は決して優秀な学生ではなく、どちらかというと毎日何かの指導を受けているような生徒でした。そんな生徒だった私が、現在たくさんのファミリーと呼べる仲間・師匠・お客様と毎日ワクワクして仕事に取り組んでいるのは、福永先生から教わった「相手の気持ちになって考える」ということがすべての根幹になっています。

いま自分が求められていることは何か、どのようにすれば皆がハッピーになれるのか、決して自分ひとりのため、独りよがりな利益ではなく、周りの人のために自分が出来る最大限のことを全力で取り組む、そんなことを常に考えています。

私はまだまだ未熟で成長の過程の中にいますが、少しでも誰かに認められて、感謝された時の喜びは、この上なく嬉しいものです。打算で行動してはいませんが、常に誰かの事を想って行動していると結果は必ずついてくると思い、現在は目の前の仕事に全力で取り組んでいます。

また、2022年に千葉県から私の制作する組紐が伝統的工芸品として認可をいただいたこともあり、今後は千葉県や地元市川市への貢献が出来るように努めたいと考えています。

最後に、私は日出国で過ごした15年間の中で得た教えや、かけがえのない仲間へ感謝して、これからも邁進していきたいと思っております。皆様の今後の学校生活がより良いものになるよう、陰ながら願っております。

【1993年生まれ 2011年日出国中学校・高等学校卒業】

巻頭言

読書する、勉強する、学びを深める+交流の場としての図書館改革を推進

皆さんにとって、「図書館」とはどのような場所でしょうか？ 本がたくさんある、鍵がかかった暗い部屋。静かに勉強をして過ごす場所。そんなイメージを持たれることも多い図書館ですが、実は最近の図書館は、その役割や形を少しずつ変えています。

「図書館は成長する有機体である」とは、図書館学の父・ランガナタンの言葉です。人間や社会は常に成長、進化します。その人間の知の宝庫でもある図書館も、人間に合わせて形を変えていかなければ、それはただの箱ものに過ぎず、適切な資料を、適切な読者に、適切なタイミングで提供することはできません。図書館は「使われること」ではじめて、その真価を發揮できると考えています。そのためには、「使いたい」と思える空間・資料・機会を整えることが必要です。

日出国園の「図書館」が、日出国園の生徒に合わせて、新たな成長と変化を始めたのは、2019年

です。書庫を取り払い、活動できるスペースが増え、いつ来ても人がいる空間に変えました。また、2020年から開始した「総合的な探究の時間」によって、図書館利用指導や、図書館を使う機会を各学年1時間程度増やすことで、図書館への精神的なハードルを下げ、アクセスの機会を少しずつ増やしてきました。2階の小学校図書館も同様に、常に専任の司書を配置し、児童が利用しやすいよう館内を整備しました。

2022年には、古い資料が多かったため、少しずつ新しい本の割合を増やし、館内に色を増やし、明るい雰囲気づくりなど、生徒の手を借りながら図書館活用の土台作りにも勤しんだ1年でした。図書委員会生徒の活動のもと、選書会、ラジオ出演、放送委員とのコラボ、読書ビンゴ、小学生との交流会など、イベントなどの活動を始めたのも、図書館を身近に感じてもらうための取り組みの1つです。最近では、貸出数が例年の2倍になり、教員

や生徒など来館者に、「来る度に図書館の色が変わっていておもしろい」と言ってもらえることも増えました。

図書館は本に出会い、その本を書いた人の知識や学び、経験や感情を体験できる場ですが、そういった「個」の活動以外に、図書館に集まった人同士の出会いによっても、経験や情報を得ることができる学びの交流の場でもあると考えています。

最近では、新たな出会い、発見、学びの場として「Educere(エデュケール)」というイベント形式の取り組みを始めました。また、日出国園メディアセンターが学びと交流の場であることを象徴するものが、2階と3階を繋ぐ内階段です。ユニディから見ても目立つその象徴的な階段は、最近、活発に利用されるようになりました。2022年から2度行われた小学生との交流会のほか、読書に意欲的な小学5、6年生の数名が、中高図書館に月



中学校・高等学校 図書館司書 探究科
成松 万里奈

2回ほど、利用しに来る機会を設けられるようになりました。

それにより、小学生と中高生間で、本を勧め合ったり、その感想を話し合ったり、新たな交流が見られるようになりました。メディアセンターが、校種をまたいでの交流の場となることができた、貴重な取り組みです。この先、2階、3階で相互に児童生徒が行き来でき、好奇心と探究心を満たす資料と出会える機会と、校種を越えた交流の空間となることを、日出国園メディアセンターの役割の1つと考えています。

日出国園メディアセンターは、まだ課題が山積みです。常に成長と進化を遂げるためには、まだまだやるべきことがたくさんあります。ここに来れば何かが見つかる、知ることができる、なんでもできる、気軽に「行ってみよう」と思ってもらえる。そんな場所を目指し、これからも成長と進化を続けます。

特集 いま「図書館」がおもしろい!



これまで“静”のイメージだった日出学園の図書館が大きく動き出しています。小学校、中学校・高等学校の図書委員、司書の先生たちの企画力や行動力で変貌していく図書館。本に親しむ。学びに没頭する。知識を深める。そして児童・生徒たちが交流する。今回の特集はそんな図書館大改革を紹介します。

Best Reader 小学生の中高図書館利用が実現

昨年度、小学5年生の児童らが中心となって企画され、中高図書委員の生徒や小学校、中高の図書館司書の敷下夏美先生、成松万里奈先生らのサポートを得て動き始めた「中高図書館ツアー」が、今年度1学期について実現しました。

小学生が中高図書館に行って自由に歩き回り、小学校にはないたくさんの中高の本の中から気になる本を探し、借りることができればという発想から生まれた、小学生による中高図書館利用企画。しかし、中高図書委員からは「ある程度人数制限をつけたほうが、特別感が出るのでは」などの意見が出されました。そこで、昨年度、小学校図書館の本を最も多く読んだ児童5人を「Best Reader」として選び、その児童たちが5月から7月に月2回ずつ計6回、お昼休みに中高図書館に行く機会を得ることができました。

今回実施された中高図書館ツアーの企画立案者の一人であり、Best Readerにも選ばれた佐藤穂花さん(児童会長)は、「Best Readerに選ばれて中高図書館にいけると聞いた時は、耳を疑いました。本当にうれしかったです」とその時の心境を語ります。

そのBest Readerの児童を迎える側の中高図書館の成松先生は、「小学生が2階と3階の図書館を結ぶ階段が上がってくる時の軽やかな足音がとても新鮮に感じました。図書館内でもお勧めの本をそこにいた図書委員の生徒に聞いたりして、自然に溶け込んでいました」と、初日



の感想を述べられています。

小学校図書館の敷下先生も「周りの児童からも『何冊借りたら中高図書館にいけるのですか?』といった質問をされ、羨ましがられていました」とコメント。今後、小学校の本を読み尽くし、さらに専門的な本を読みたいと励む児童が中高図書館に行けるようにしたいとのこと。

一方、中高生からも小学校の図書館を利用したいという意見が出され、1学期に初の試みで高校生が小学校図書館で絵本を借りるなど、相互に図書館を利用するという新たな動きが出始めています。

Best Reader 佐藤穂花さん Interview

昨年度、425冊の本を小学校図書館で借りてBest Readerに選ばれた佐藤穂花さんの、読書への熱い思いを語ったインタビュー動画をQRコードからご覧ください。

特集 いま「図書館」

中高生×小学生 「教えて! せんぱい 中高生のリアル」

小学校高学年になると待ち受ける、中学受験や中学校生活への不安や悩み。では、リアルな中学校生活はどんな様子なのか。それを「せんぱい」である、身近な日出学園中高生に聞いてみようというイベント「教えて! せんぱい 中高生のリアル」が、6月20日のお昼休みに、小学校図書館で開催されました。

主催したのは小学校図書委員会。事前に5・6年生に、中高生に聞いてみたい項目をアンケートし、それをセレクトして本番に臨みました。答える側の中高生の参加者は、内進生や外部から進学した8名の「せんぱい」たち。その8名が中高図書館からの内階段を下ってくる

ところから、交流会が始まりました。小学生からの質問は「中学受験で大変だったときの自分へのご褒美は?」「いちばん人気の部活は?」「日出学園中学校に内部進学して良かったことは?」など。これらの質問に中高生はていねいに答えていました。この日は小学校の教員も見学し、当時教え子だった中高生の成長し



た姿を、感慨深そうに見つめていました。

小学校と中高の交流は、クラブ体験会や昼食交流会などがありましたが、児童発信の今回の交流は初めての試みです。

「視聴覚室などを使えばもっと大勢の児童が参加できたかもしれませんが、図書館を交流の場にしたいという発案で、まずは実現できたこと、参加した児童や中高生が楽しんでいたのがいちばんの収穫です」と成松先生。

今回参加した小学生も、あと数年で答える側に回るかもしれない、新たな交流会でした。

中高生の新たな「学び」と「交流」の機会 = Educere!

「Educere!(エデュケーレ)」——。ラテン語で「心身の養育や支援」の意味を持つこの言葉を冠した、中高図書館での新たなイベントが今年度からスタートしました。

「Educere!は学園内外からゲストスピーカーを招き、人生への新たな気づきを『発見』してもらって、生徒自身の視野を広げることが目的とするイベントです」と、発案者の成松先生。第1回は「eスポーツの世界」(5月25日)。ヒューマンアカデミー/CREST GAMINGの黒田俊平さんをお迎えし、なかなか伺い知ることができないeスポーツ業界の話が聞けました。

6月には、本学園の総合探究科の教員であり、全日本子ども金融教育協

会代表理事を務める田村美和先生による2回の「金融教育」が行なわれ、6月5日のEducere!は「貯蓄vs投資〜違いって何!?〜」。6月22日は「お金のクイズ大会」で盛り上がりました。

スタートしたばかりの「Educere!」ですが、成松先生は今後もいろいろなテーマに取り組んでいきたいとし、「これからも先生や卒業生に講師になっていただき、生徒たちにとっても新たな学びや交流の機会になれば」と抱負を語っています。

●Educere!は中高ホームページ「活動日記」ブログでも詳しく紹介しています。



Message

誰もが主人公の図書館を
小学校図書館 司書 敷下夏美



子 どもの頃、いまよりもっと本を読むのが好きだった。でも、私にとって読書とは、本を開くところから始まるのではなかったような気がする。

背表紙を眺めながら、本棚の間を歩くのが好きだった。気になるタイトルがある。その言葉や字体から、本の中身を想像する。だれが出てくるのだろう? 怖い話? 不思議な話? 私の読書は、図書館へ一歩足を踏み入れたところから始まっていた。深い森の中へ迷い込んだあの感じ、あの時のわくわく感を、卒業以来久しぶりに来たこの日出の図書館で実現できないかな、と思った。

実 際、日出学園図書館には課題が山積みである。蔵書が古い。蔵書数のわりに分類も曖昧だった。めあての本が探し出せない。整備は必要だが、正直どこから手を付けたらよいかわからなかった。手始めに、低学年がおもに利用する絵本コーナーを整えた。タイトルごとから作者ごとに蔵書を並べ替え、物語絵本と低学年向けの読み物、知識の本を分け、昔話絵本を別置きにした。雑誌も低・中・高学年、それぞれに合ったものを一誌ずつ取り揃えた。それから中学年以上が調べ学習にも使う資料はより細かく分類し、見つけやすいように差し込み表示を入れた。ラベルの貼り替えはまだ追いついていない。

コーナー展示や掲示も定期的に変えるようにした。季節感や世の中で話題になっていることのみならず、教科の単元に関わること、その時々

の話や出来事を展示や掲示に反映させた。古くてほとんど動いていない、でも中身は面白い本も紹介した。埋もれている本を前面に出し、ポップを付ければ子どもたちは抵抗なく借りていく。日出っ子の本好きは、いまでも変わらない。

み んが気持ちよく図書館を利用できるよう、子どもたちに利用のマナーを教え、図書委員会やボランティアの子たちの助けを借りながら、少しずつ図書館を整えてきた。文学作品は、古くても普遍的な価値のある本は残し、同時に新しい作家の作品にもアンテナを張っていかねばいけ

ない。教科に必要な資料だけでなく、さまざまな活動に役立つ本を取り揃え、児童だけでなく先生方にも図書館を大いに利用していただき、教科や学級指導に役立ててほしい。

ここに来ればほっとする、何かが見つかる、課題が解決する、そんな、誰もが主人公である図書館づくりを目指していければと思う。



「館」が面白い!

1学期に行われた図書館でのイベントや、小学生と中学生の交流の様子は、QRコードから動画でご覧いただけます▶



中高図書委員が紀伊國屋書店新宿本店で選書会

最近の図書館の活動は、学園内だけにとどまりません。1学期の期末試験を終えた家庭学習期間中の7月13日、中高図書委員の6名の生徒が東京・新宿の紀伊國屋書店新宿本店で、店頭選書会を行いました。

これまで図書館の本の購入は図書館司書の教員が、蔵書を紐解きながら、どういう本が図書館に足りないのか、どういった内容の本が日出学園の生徒にとってふさわしいのかといった視点で選び、限られた予算の中で本や雑誌を購入してきました。



その本の購入を、実際に図書館で本を借りて読む生徒自身に選んでもらいたいという思いから、紀伊國屋書店新宿本店に協力いただき、店頭に出学園図書委員が出向き、選書会が実現しました。

「参加する図書委員の生徒たちは、事前にどういう本が足りないのか、必要なかを話し合い、他の生徒の目線に立って選書の方針を決めて選書会に臨みました」(成松先生)

そして、当日は紀伊國屋書店の方から選書の仕方をレクチャーしていただき、1階から8階まである広い店内を回って購入したい本を選出しました。選書後は店内のラウンジで「なぜその本を選んだのか」のプレゼンを行い、皆で購入決定の判断をしました。

購入した書籍については、夏休みに図書委員が本紹介のPOPを作成し、9月にはそれを紀伊國屋書店新宿本店に掲示して、一般の方の本選びの参考にしよう予定です。

園児自身が絵本を選び、本に親しむ習慣を

幼稚園から日出学園に通う「ひのでっ子」なら、幼稚園にある八角形の高い天井が特徴的な「絵本の部屋」はご存知のはず。本を読むことが大好きな、日出学園の児童・生徒たちの原点ともいえる幼稚園の図書室です。

園児たちが園内で本に親しむ機会

は、先生による絵本の読み聞かせのほか、保護者と一緒に絵本の部屋で絵本や図鑑を探して借りる『わくドキ文庫』と、年中・年長の園児を対象にした『こども文庫』があります。

これは、園児自身が絵本の部屋で自分が興味をもった絵本を選び、家に持ち帰って読むというものです。

「今は親の世代が本や新聞を読まなくなり、ある児童書の出版社の調査では、家に絵本があるという家庭も年々減少傾向にあるそうです。ですから、幼稚園ではまず園児たちが本

に親しむ、読書を楽しむ。その習慣を身につけてほしいという思いから、絵本の部屋の利用に力を入れています」(鍛冶礼子園長)

また、幼稚園では未就園児保育「ふたば」の保護者に、幼稚園の先生が選んだ絵本シリーズを毎月有償配布する、「月刊えほん」を今年度から初めました。

「子どもと親がいっしょに絵本をめくりながら、描いてあるものを指差して読み聞かせることは、Youtubeの絵本の読み聞かせ動画を見せるだけでは得ることができない、親子のコミュニケーションのきっかけになり、子どもにとっては学びの第一歩となるものです」と鍛冶園長。

好きな絵本に出会い、ポロポロになるまで何度も親子で読み聞かせを楽しむ、そんな1冊をぜひ見つけてほしいですね。



TOPICS

中学校 1学期に6人の交換留学生在日出学園に滞在。 高等学校 St.Paul'sとの交流も再開

夏休み前の1学期、日出学園中学校・高等学校の校舎では留学生らと交流する場面が多く見られました。

「日出学園ではコミュニケーションと多様性を体験する機会として、国際ロータリー青少年交換プログラムの交換留学生制度を利用したものや、YFU(公益財団法人YFU日本国際交流財団)による高校生の交換留学生プログラムを使って、海外からの留学生を受け入れ、本校の生徒も交換留学生として、1年または3カ月間留学するなど、海外の高校生との交流が活発になってきました」(高等学校・佐久間教頭)

そうした交換留学生のうち、オーストラリアから来たエリさん(Elle May HOCKING)は、国際ロータリークラブの交換留学生として、2022年度の3学期の初めから今年12月までの約1年間、日出学園に通っています。

また、今年度の新学期から1学期まで滞在したドイツ人のトニーさん(Antonia Leela DUCHECK)はYFUの交換留学生で、日出学園の生徒のご家庭がホストファミリーになって、3カ月間、日出学園に通いました。

他にもYFUの交換留学生として、6月後半から1学期終了までの期間、アメリカからの留学生が4名、日出学園で学びました。

「最初、留学生たちを連れて校舎内を案内するのですが、生徒たちが駆け寄ってきて話しかけてくれ、すぐに仲良くなるという感



後左からトニー(ドイツ) / イライ / レイス / リズ / リタ(アメリカ) 手前中央がエリ(オーストラリア)



「互いに英語も日本語も話せなかったけれど、すぐに友だちになることができて今では大親友です」とトニー

じですね。留学生に英語で話す生徒もいれば、日本に来たのだから、日本語を覚えたいはずと、日本語で話しかける生徒など、いろいろです。彼らを部活に誘うなど、生徒たちがいろいろ働きかけています」と佐久間教頭。

今年はオーストラリアの姉妹校、St.Paul'sとの交流も再開され、6月28日には生徒2名が来校。ほかの留学生たちとともに6年5組の英語の特別授業「Talking with Exchange Students about SDGs」(授業担当・渥美友裕先生)に参加して、留学生と英語によるディスカッションが活発に展開されました。

6名の留学生インタビュー、特別授業の様子はQRコードから動画でご覧いただけます。▶



幼稚園 幼小連携カリキュラム「わくドキ授業」で 音楽・理科・情報・図工の授業体験

それぞれの「わくドキ授業」の様子は、写真画面のQRコードから動画でご覧いただけます▶



音楽



理科

日出学園幼稚園では、小学校に進学するための就学準備として、日出学園小学校と連携した「わくドキ授業」を行ってきました。コロナ禍で中断を余儀なくされましたが、今年度は1学期と2学期に、年長クラスを対象とした計8回の「わくドキ授業」を行う予定で、1学期は「音楽」(5月18日)、「理科」(6月1日)、「情報」(6月7日)、「図工」(6月23日)の授業を、保護者参観可能で行いました。

園児たちは小学校に歩いて行く途中から、どんな勉強をするのか、わくわく・ドキドキ。広い校舎や長い階段、授業ごとに異なる教室での勉強など、幼稚園とは違う環境に期待が膨らみます。小学校の教員も、幼稚園児という年代の特性を考慮し、45分間の授業でそ



情報



図工

ぞれのセッションを短めにしたり、音楽では手や体を使ったリズム遊び、理科では園児自ら実験して水の色が変わる不思議を体験をしたりする、さまざまな工夫が凝らされた授業を実施しました。

図工では、小学生の授業と同じように、電子黒板で映像を見ながら作り方を学ぶのも、幼稚園にはない学習体験でした。

「授業では埋もれてしまう園児がいなかを気をつけながら、小学校に来たらこんな面白い勉強ができるんだよと、興味を持ってもらえるよう心がけました」(情報科・田中先生)

参観した保護者の方々も、1年後の我が子を見るような、そんな「わくドキ授業」でした。

ひので農園/コンクール・大会優秀成績者・部活動/学校紹介イベント

ご存知ですか? ひので農園 Report

皆さんは、日出国園に「畑」があるのをご存知ですか? 実は、幼稚園にも小学校にも中学校・高等学校にも畑があり、果樹が植えてあり、野菜や果物を収穫しているのです。

中学校・高等学校では、技術科の山本俊一先生が法人本部棟と小学校棟の間の空地を2021年の秋から耕し、枯れ葉で作った堆肥を入れて畑に転用。2022年の4月に中学2年の技術科の授業で、初めてサツマイモの苗を植えました。

「中学校の『技術・家庭科』では、生物や植物を生育させる中での課題発見と改善といった授業があり、これまで人工栽培の装置を使って植物を育成してきましたが、実際に自分たちが植えたものがどう育って、それをどう収穫して食べるかといった一連の流れを体験してほしいと、畑を作ることにしました」と、山本先生。

小学校では北澤貞夫先生が緑化委員会の教員

や児童らと、3・4階の屋上庭園やプロムナード脇の花壇や畑に茄子やきゅうり、ミニトマト、ズッキーニ、里芋などを植えて育てています。

1学期には1年生が育てたきゅうりを収穫して浅漬けの漬物を作り、その日の昼食に皆で食べたそうで、自分たちが育てたきゅうりの味は格別だったようです。

幼稚園では園庭西側に小さな畑を作り、園児たちがナス、きゅうり、ミニトマト、ピーマンを植え、毎日水をやって育て、収穫した野菜はお昼ご飯にお味噌汁などにして食べています。

また、園庭で育ったピワや桃の実を昼食で食べるなど、食育の一環として植物を育て、収穫する保育を1年を通じて行っています。

各学校の「ひので農園」の活動の様子は、QRコードから動画でご覧いただけます▶



コンクール・大会等優秀成績受賞者

(結果発表: 2022年12月~2023年9月10日現在までのもの)

コンクール名	受賞作品名	賞	受賞者	学年・組
作文コンクール 「400字で言わせて!」	【読売KODOMO新聞賞】 「鉛筆とシャーペンと私。」	大賞	藤代紗弥花	旧6年3組 (現東京女子館中学校)
第63回 自然科学観察コンクール	カビを防ぐ最強の物 ~身近な食べ物に役に立つ~	佳作	竹内希恵	旧4年3組 現5年1組
	ストームグラスは本当に 天気を予測できるのか	佳作	石橋 亮	旧6年1組 (現開成中学校)
第66回 全国学芸サイエンスコンクール 社会科自由研究部門	美しい千葉の海を未来に残そう! 千葉県主要海岸の漂着ゴミ調査	入選	渡邊 光	旧4年1組 現5年3組

大会名	種目・部門・結果	所属部活	受賞者	学年・組
第131回 市川・浦安支部陸上競技記録会	1年女子100m: 2位 (13秒84)	陸上部	千島直子	1年4組
	令和5年度 市川浦安支部 中学校総体 陸上競技の部	1年女子100m3位 (13秒77) 県総体につながりました	陸上部	千島直子
千葉県中学校総体 体操競技の部	体操競技 男子跳馬: 1位	個人	稲嶺 成	3年4組
	体操競技 男子鉄棒: 2位			
	体操競技 男子あん馬: 4位			
	体操競技 男子個人総合: 6位			
第36回 関東バトントワーリング コンテスト	《トゥーバトン》女子U-15: 第1位	バト ントワー リング部	神原 葵	3年3組
	《スリーバトン》女子U-15: 第1位			
	《スリーバトン》女子U-15: 第3位			
令和5年度 関東兼総体予選 第10地区大会	シングルス戦: 第9位	女子硬式 テニス部	山崎陽香	6年2組
	ダブルス戦: 第7位 山崎 / 佐々木 ペア			
第76回千葉県高校総体 バスケットボール大会	県大会出場	男子バスケット ボール部		
千葉県中学校水泳競技大会	男子400m個人メドレー: 1位 (香川県で開催の中学校全国大会出場)	水泳部	金坂友剛	2年4組
	男子400m自由形: 5位 (関東大会出場に該当する順位だが全国大会出場を決めたため辞退)			

2023年度 新入園児・児童対象《学校紹介Event》開催

中高生が
サポーター

幼稚園 「未就園児親子お楽しみ会」 7月22日

未就園の親子が、日出国園幼稚園教員と触れ合い、幼稚園の雰囲気を通して「未就園児親子お楽しみ会」が今年も開催しました。

このイベントに参加するのは未就園児だけではありません。もう一つのグループ、日出国園高等学校の生徒たちがボランティアでこの催しをサポートしています。今年も夏休みに入ったばかりの7名の女子生徒がお手伝いで参加。受付やホールに用意されたボールでの的当て、魚釣りなどのアトラクションで幼稚園教員をサポートして、子どもたちをやさしくお世話していました。

この親子体験会の人気プログラム、池部かほり先

生によるフラグランスにも高校生たちが加わり、「バナナのおやこ」の曲に合わせてフラグランスを踊ると、それにつられて子どもたちも参加していっしょに踊るなど、ほほえましい場面が見られました。

参加した高校生からは「学園内に幼稚園がある環境なので、子どもたちと触れ合ってみたくらいと思



高校生がお世話をするのもお楽しみ会のひとつの光景に



今年ボランティア参加した中高4・5年生

思っているのと、そのためのひとつの経験になればいいかな」といった声が聞かれました。そうした生徒たちが、次に教員となって日出国園に戻ってくるのを期待しています。

小学校 「親子体験会」 8月26日

夏休み最後の週末、小学校に未就学の子と保護者の方を招き、ディズニーストリーの世界「トイストーリー」をテーマに、親子で日出国園小学校を楽しんでもらう「親子体験会」が開かれました。この親子体験会は新学期が始まった頃から企画が練られ、毎年、おとぎ話やアニメの世界をモチーフに、教員が趣向を凝らし、配役を決めて、教員も楽しみながら親子の皆さんをお迎えする、夏休みの恒例イベントです。

トイストーリーの主人公、ウッディに扮したのは廣嶋秀行先生。「えっ! 本物?」と思うほどの絶妙なキャスティングです(写真真)



プールを知り尽くした水泳部員のお手伝いは心強い限りです



アンディのおもちゃたちと英語遊びを

子どもたちはスタンプラリー形式でターザンロープで冒険したり、音楽室で英語のリズム遊びをしたり、カウボーイハットづくりに挑戦したり。そして、猛暑日となったこの日いちばんの人気アトラクションは、屋上プールでの水遊び。水着に着替えた子どもたちは水鉄砲でシューティングゲームを楽しみましたが、ここでも中高水泳部の生徒たちがサポート役で参加。プールでのこの光景も恒例のものとなり、子どもたちは安心して水遊びに興じていました。

編集後記 宿泊学習も通常に戻った今年の夏休み

2学期が始まり、真っ黒に日に焼けた園児や児童・生徒が学園に戻ってきました。今年の夏休みは小学校6年生にとってはコロナ禍によって果たせなかった軽井沢の日出国園山荘での特別林間学校が行われ、岩井海岸での臨海学校も再開されるなど、小学校最後の夏休みにふさわしいイベントを送ることができました。10月には日出国もコロナ前の規模で大々的に行われます。この号が発行される頃は、その準備に追われていることでしょう。改めて、当たり前前の日常生活のありがたさ、大切さを感じる毎日です。

編集発行人 学校法人日出国園 学園長 青木 貞雄

学園通信「日出」Vol.41 2023年10月号

※本紙掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

発行 2023年10月1日

編集発行人 青木貞雄(学校法人日出国園 学園長)

編集 学園通信「日出」編集委員会

幼稚園 根岸 わかな

小学校 澤瀬 正幸 廣嶋 秀行

日下 瑞穂

中学校・高等学校 石川 茂

法人企画室 児玉 尚樹 児玉 孝喜

渡邊 広樹

2024年度 募集要項

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
募集人数	3年保育(3歳児): 約45名 2年保育(4歳児): 約10名	102名(男女)	推薦入試: 50名程度 一般入試 I期: 30名程度 / 一般入試 II期: 20名程度	推薦入試: 20名程度(男女) 一般入試: 20名程度(男女)※日出国園中学校を除く(特進コース30名程度を含む)
願書受付	●Web: 2023年10月2日(月) 10時~10月18日(水) 15時締切 ※願書配布はありません。 Webにて願書入力をしていただきます。	●Web: 2023年10月1日(日) 0時~10月17日(火) 締切	●Web: 2023年11月1日(水)~11月17日(金) 15時締切 ●郵送: 2023年11月18日(土)までに必着 ●窓口: 2023年11月18日(土)までに提出 平日9時~16時 土曜9時~13時	●Web: 2023年12月17日(日)~2024年1月9日(火) 15時締切 ●郵送: 2024年1月11日(木)までに必着 ●窓口: 2024年1月11日(木)までに提出 平日9時~16時 土曜9時~13時
試験日時	2023年10月21日(土)の午前・午後	第1回 ●Web: 2023年10月1日(土) 0時~10月23日(月) 締切 第2回 ●Web: 2023年10月1日(日) 0時~11月16日(木) 締切	●Web: 2023年12月3日(日)~2024年1月12日(金) 15時締切 ●郵送: 2024年1月13日(土)までに必着 ●窓口: 2024年1月13日(土)までに提出 平日9時~16時 土曜9時~13時	●推薦: 2024年1月18日(木) 国語/数学/英語 ●一般: 2024年1月18日(木) 国語/数学/英語/面接
合格発表	2023年10月23日(月) 15時30分~Web発表	2023年10月20日(金) 12時~Web発表 第1回 ●2023年10月26日(木) 12時~Web発表 第2回 ●2023年11月20日(月) 12時~Web発表	●推薦: 2023年12月2日(土) Web 17時 書類ダウンロード 17時~ ●一般 I期: 2024年1月21日(日) Web 17時 書類ダウンロード 17時~ ●一般 II期: 2024年1月24日(水) Web 17時 書類ダウンロード 17時~	●推薦: 2024年1月20日(土) Web 17時 書類ダウンロード 17時~ ●一般: 2024年1月20日(土) Web 17時 書類ダウンロード 17時~